○もつれみるノ胞嚢　（山田幸男）

もつれみる (*Codium intricatum* OKAM.) ハ日本藻類圖譜第3卷 (1913) p. 74, pl. 120, figs. 1–8. ニ於テ記載セラレタ種デ、産地トシテハ琉球、日向、肥前野母崎、天草二江、土佐柏島、紀州潮岬、志摩濱島ガ擧ゲラレテキル。此ノ上ノ記載文ハ比較的簡單デ胞嚢ニ毛ノ有無ニ就テモ記シテナク又髓絲ニ關シテモ何等觸レル所ガナイ。此ノ事ハ既ニ O. C. SCHMIDT 氏モ指摘シテキル所デアル (Beiträge zur Kenntnis der Gattung *Codium* in Bibl. Bot. Heft 91, 1923, p. 56)。筆者ハ嘗テ沖繩那覇附近ニ於テ本種ト覺シキモノヲ採集シ之ヲ同定スル際ニソノ胞嚢ノ大サガ著シク原記載ノ夫レニ異ナル事ニ氣付イタガ他ニ何等此ノ種カラ區別スベキ特徴ヲモ見出シ得ナカツタ爲此ノ種ト同定シ唯餘リニ胞嚢ガ原記載ノ夫レヨリモ小ナル故ニもつれみるノ一形ナラントシタノデアツタ (Mar. Chlorophyc. Ryukyu. 北大紀要3卷, 1934, p. 79, fig. 48)。

所ガ其後臺灣琉球嶼、生物學御研究室ノ葉山産標本 (1976a), 伊豆下田産標本等ヲ檢スルニ及ビ再ビ此ノ點ニブツカツタ。卽チ他ノ性質ハ皆もつれみるノ性質ニ合致スルガ皆胞嚢ガ小サイノデアル。卽チ原記載ニハ 770–1150μ ノ太サヲ有シ長サハソノ 5-6 倍トアルニ反シ上ノ那覇産ノモノハ 250–300μ ノ太サヲ普通トシ稀ニ 500μ ニ達スルモノガアル。他ノ葉山、下田、臺灣ノモノモ同樣デアリ又曾呈奎氏ノ海南島産ノモノヽ記載文ニ於テモ同樣ナコトガ見ラレル。ソコデ幸ニ筆者ノ手許ニアル故岡村先生ノ標本ト比較セントシタノデアルガ *Codium* ノカバーノ中ニ先生ノ手デ本種ト記シテアルモノハ唯一枚デ此レニハ "TYPE" トイフ印ハナイ。コノゴム印ハ日本海藻圖説並ニ圖譜ニ圖示サレタ際ニ用ヒラレタ標本ノ意デアルガコノ唯一枚ノ野母崎産ノ標本ニ之ガナイ事ハ尠クトモ此ノ標本ハ原標本デハナイ事ヲ示シテキルト思ハレル。然シ原記載中ニ産地トシテ野母崎ノ名モ見エル故原標本ニ準ズルモノト見テ好カロウ。何レニシテモ此ノ標本ヲ檢スルニソノ胞嚢ノ大サハ約 200–240μ ノ太サノモノガ最モ普通デソレヨリモ細イモノハアルガ太イモノハ甚ダシク稀デアル。又長サモ太サノ 2.5-3 倍位ガ最モ普通デ 4–5 倍ニ達スルモノハ甚ダ稀デアル。毛ハ胞嚢ノ肩ニ存スルガ殆ド脱落シ時ニソノ痕ヲ殘シ又痕跡ノナイモノモ多イ。髓絲ノ太サハ徑 25–35μ 位アル。次ニ岡村先生ノ標本ノ内ニハカバーニ入ツタモノヽ外新聞紙包ミノモノガアリコレニ先生ノ手デ *Cod. intricatum* OKAM. ト記サレタモノガアル。コレ等ハ何レモコノ種ガ記載發表セラレタ 1913 年以後ニ採集セラレタモノラシク、紀州日高郡、紀州瀬戸、伊豫國北宇和郡、土佐沖島村、八丈島産等デ之等ヲ檢スルニ何レモ胞嚢ハ野母崎ノ標本ト大同小異デアル。

以上ノ結果カラ原記載ニアルもつれみるノ胞嚢ノ大サハ何等カノ誤デハナイカトノ疑問ガ湧イテ來ル。勿論原標本ヲ檢スルコトガ出來ナイカラ今直ニソウト決定スル事ハ憚カラレルガ恐ラクコノ疑問ハ當ツテキルモノト思ハレル。尙附加シ度イコトハ原記載文ニ伴フ第120圖版 10–13 圖ハ何レモ胞嚢ヲ示ス圖デアルガコノ實際ノ大サト夫々ニ示サレタ倍率トヲ比較シ更ニ記載文ノ數字トヲ比較スル時此處ニモ何等カノ誤ガナカラウカト思ハレル事デアル。